

# ATEM Newsletter

Apr. 2010 NO.19

発行日 :2010年4月20日  
 発行 :映画英語教育学会事務局  
 住所 :〒169-0075  
 東京都新宿区高田馬場  
 4-3-12アルク高田馬場4F  
 TEL :03-3365-0182  
 FAX :03-3360-6364  
 E-mail :office@atem.org  
 郵便振替 :00820-3-1477

**ATEM** 映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## ■ 東日本支部活動報告

ATEM理事 新田晴彦(専修大学)  
 Haruhiko NITTA

東日本支部が設立されてはや3カ月。時間が経つのははやいものです。この3カ月の東日本支部の活動をご報告いたします。

### (1) 東日本支部ホームページの開設。

<http://www.atem.org/higashinihon/>

それぞれの委員会が、それぞれの判断で情報を発信できるようにwordpressというブログ形式を採用しました。これにより、情報が早く提供できるようになっただけでなく、広報のホームページ担当者に負荷が集中せず管理が楽になりました。映画レビューのコーナーもできました。研究部会の予定も日々更新されています。支部のニュースレターは封筒や郵送料のコストを抑えるため、ホームページにてダウンロードする形になる予定です。

ぜひ積極的に活用して頂ければと思います。

### (2) 研究活動の充実

研究活動の場を広げる。これは支部設立の最大のテーマでした。そのために、設立前から研究部会の構想を練り尽力してまいりました。研究部会に最大の運営委員を配置しているのも研究部会を重視するがゆえです。本年の2月より例会の開催が始まりました。例会は今後毎月開催していくという無謀な計画に果敢に挑戦しております。研究部会運営委員からの報告によりますと3年分のテーマはすでにあるということでした。(ほんまかいな!)

数あるテーマの中にはきっと皆さまのご興味のあるものが含まれていることと思います。

ちなみに2月の第一回例会は白梅学園大学で、本ニュースレターが配布されるころには終了しているのですが、3月はスプリングセミナーと銘打って2回目が麗澤大学・東京研究センターにて開催されます。今後の予定や詳細はホームページに掲載していきますので、ぜひお誘い合わせのうえご参加をご検討ください。



### (3) 出版研究委員会

このような本がほしい、このような教材があつたらいいのに、こうした要望を形にできないか。本委員会を設置するきっかけとなった考え方です。ひとりでは無理でも、みんなで力を合わせればできることもあります。また、広くアイデアを会員に求めることにより思ってもみなかったことが実現できるかもしれません。このような委員会は全国的にみても珍しいのではないのでしょうか。未知数ではあっても、可能性を秘めた委員会であると言えます。執筆の機会が増えるかもしれません。

市場に流通させる出版物でなくとも、授業で使う教材を人数分だけ印刷したいというご相談にもお応えできるかと思います。

現在、支部設立を記念して、出版の企画がひとつ進行中です。東日本支部の活動に日ごろ参加して頂いている方々にお声かけをして編集会議を積み重ねております。

その他、支部大会を支部設立の1年後ぐらいをめどに考えておりますが、まだ具体的にお知らせできる段階ではありません。今後大会運営委員会で検討をしていきます。こうした情報も適宜ホームページにてお伝えしてまいります。主な活動状況は以上の通りです。

東日本支部は、個々の企画案から組織全体にかかわることまで含めて、運営に柔軟性をもたせていきたいと考えております。簡単にいえば、いいアイデアがあればいろいろ試してみようというスタンスです。皆様からのお恵やアドバイスをお待ちしております。今後のニュースレターで、さらに具体的な内容をもちたご報告ができるように活動を続けてまいります。

# 戸田奈津子氏 記念講演 「映画で英語を学ぶ」

2009年12月20日、相模女子大学における

ATEM東日本支部結成大会にて、

映画字幕翻訳家、戸田奈津子氏の記念講演会が行なわれました。

「字幕翻訳」とはどういった職業なのか、

また英語を学ぶ上で大切なことなど、内容は多岐にわたりました。密度の濃い2時間となりました。

みなさんこんにちは、今日は「映画英語教育学会」の東日本支部が設立されたということですが私が私は日常的な「生きた英語」を学んだのは全て映画からで、この学会の趣旨を實踐したよな人間です。

映画は活用方法によっては本当に素晴らしい力が付くと思っております。この学会の趣旨では映画を使う英語教育ということなのでI can not agree more!(笑)というくらい、どんなに共感しても共感できないくらい思っています。

今日は、私の仕事の概要と、映画の素晴らしさ、楽しさというものを気楽にしゃべらせていただきます。

みなさんアバターという映画お聞きなっていますか？

3D映画。監督はジム・キャメロン。タイタニックの監督です。タイタニックが封切られた時「僕はもう絶対に2Dには作らない。これからは3Dだ」とジムが断言したのが12年前。

その彼が今まで全エネルギーを注いで今回アバターがやると完成したことです。

アメリカで数日前に封切られて日本は今週末に封切られます。それをやるやいなや彼は日本に飛んできて今頃成田に着いている頃ですが、これからインタビューするっていうんです。すごいでしょ？ 映画監督は、自分の映画のためにそれだけエネルギーを注ぐわけ。

で、舞台はジャングルに覆われた惑星で、空中を飛んでる山な人かもあるわけですが、見たこともないような植物、動物、それが全部厚みをもって距離感をもって出てくるんです。

そのイメージネーションで作った世界の美しさが非常に印象的な。

その映画が12年間、実際に作業にかかったのは例え5.6年としても、字幕屋としてはもうちょっと早く作って欲しいと思うわけ。でも監督っていうのは少しでも良い絵を作ろうと妥協しないので時間がいくらあっても押してくる。

それで字幕を私がやることになりました。それが待てど書らせどフィルムが来ない。

翻訳は1日で仕上がるわけがないし、字幕をフィルムに焼き付ける作業の時間があるわけ。

それなのに素材が来ない。

それかひと月前くらいからやっど届くようになってます。とこ

ろがね、ものすごく映像に対するセキュリティがきびくびして、せつかく来たって映像が見えない。

人の顔だけばつと画面に出てもしゃべり終わると消えちゃうんです。で、後真つ暗。(笑)

だから、画面の背景で何が起きているか。この人は誰としゃべっているのか、わからない。

日本は来てても詳しくと書きたくないからどんなシチュエーションなのかもわからず。

とありえず訳しても、新しいバージョンですと次から次へ完成作品に近いものに変わってきて、その度に台詞も変わってくる。それを争うつどいかけられるわけ。

結局原稿は出さなきゃいけないし、もう間に合わないからしようがないわけ。で、私は一週間前位にやっど原稿を出しました。

立体画像でも字幕は画面の中に落ち書いています。ただ、その字幕を焼き込む技術は日本にないのでニューヨークのラボに送るわけ。

原稿は画面と手エックしてないない、日本語のわからない人が字幕入れているわけだしね。

もう本当にスリル満点なんです。(笑)

そして仕上げてたのがおとといやっど来ました。おとといよ。それを見て、本当に腰が抜けるほど映像が素晴らしい。全然今まで見ていなかったわけですから。

でも、やっぱり画面を見ていないから字幕はとっても違和感があった……

ま、言い訳がましくって申し訳ないけど。(笑)

例えばね、「GO」という台詞があった時、まわりが見えなかったらどうやっど訳しますか？

「行け！どか！やれ！」とか。「かんばれっ！」って時とかもあるし。「急げっ！」って時もあるわけ。

それがシチュエーションがわからなかったら、どう訳していいかわからない。でも全体かそんな感じなんです。

不変でしょ？

それで、ニューヨークのちよつとイマイチだったたなっていうところがある。

でも、もう聞かないですよ。もう、だって、23日に封切りなんだもの。(笑)

でも、映像の素晴らしいに飲み込まれてあまり目立たないかな。

最近ほとんどどの映画も同じで、できて来るのが遅い。もう秒読みに入った頃にフィルムが届く。

しかも全部画面が見られない。ボケて真つ黒い。そういう状況です。

昔は依頼から公開まで一年あつたんですよ。ゆっくりと時間をかけて楽しみながら翻訳ができたのね。

ま、これも世の中が変わったから愚痴たれてもしょうがないんですけどね。(笑)

でもそういう時代。いわゆる大作以外の普通の映画も台本が来て、翻訳作業の時間は一週間。せめて10日は欲しいですね。

私には助手がいっぱいいいてやらせてんだらうとみなさんは思っつらっしやるんでしょね。

でも、これまでほしい11500本くらいかな、一言一句全部自分でやっています。

なんつって10日で人に配って添削する時間がないし、字幕つていのは流れますから、ひとつ直すと全部後が影響受けるんです。

だから助手にやらせるとかえつて手こずるし、ドラマを分解するとキャラクターも崩壊しちゃうの。

簡単な例をあげるとね、人稱は全部「アイ」でしよ。男でも女でも職業がなんでも「アイ」。

相手は「ユ」。偉い人も偉くない人も「ユ」です。そこでは、男の主人公がいます。その主人公が自分をどうい

かは翻訳者が決めることです。

でも「俺」という男と「僕」という男って違うでしょ。イメージが、それがちよつとちやにならると画面の中でその人物は崩壊するわけ。

ま、それは簡単な例よ。いろいろ画面でも、ちよつとした語尾の使い方とか口調とかが微妙に違うよね。翻訳者によって。

それは選べつて使えないわけ。だから、一人の感性で全部自分でない作品として統一されたものがないので全部自分でやるのね。

字幕はしゃべっている間に出てきて、読みきれなきゃだめなんです。しゃべり終わつてからのまだ字が延々と出てたり。セリフが読みきれないで消えたらドラマのリズムがくずれます。ストーリーもわからなくなつてくる。だから、しゃべっている間にさつちり読みさせて、言っていることのエッセンスがちゃんと入つて意味がとれる訳を作る。これが字幕と翻訳との決定的な違いです。

私も字幕のことを考えなかつた頃、よく映画を見てましたよ。私の学生時代は身近な英語は活字だけだから、まずヒアリングできつた。

でも、あんたにべらべらしゃべつていっているのに、字幕の短いこと。あれは直訳してないっていうのはさすがにわかりましたよ。

でもあれね、もし台詞を全部直訳したら画面中、字幕だらけになつてしまふ。本当にそう。

英語つて日本語に短くすると長くなるっていう性質があるんです。長くするのを逆に短くするのが字幕の翻訳です。

みなさん画面のドラマを楽しんでいて、端っこに出ている字幕をちよつとつまみ食いしてゐるわけ。

だから字を読むことを負担にしちゃいけない。絵に行つていて注意力をひつぱるのはまずい字幕。

無意識にサーッと頭に入ってくるのが良い字幕なわけね。字数でいうと1秒間にだいたい3文字という目安。3秒の台詞があれば9、10文字。

例えばですね、「I love him more than she does.」これは3秒です。これを10文字で言うんです。

その中で彼方よりも自分の方が彼を愛しているという意味を伝えなければいけない。大変でしょ？

英語がわかるのは当たり前。内容をうまく、コンパクトに伝えらるというのが翻訳であり通訳であるわけ。

プロとして、そこが一番の勝負どころななんです。

英語を仕事にするといつたことを全うするには、もちろん英語を勉強する。でも日本語の学習も絶対に忘れてはいけない。

私は非常ににげからんと思つているんですけど、最近は小学校からとにかく英語がしゃべられるようになってしまふようになって英語を教える。もちろんしゃべれるようになってたら素晴らしいですよ。その反面、ちゃんと本を読んだり書いたりすることがおろそかになると思います。

私は外国に住んだこともありませんし、30過ぎて通訳をやらされるまで外国人としゃべつたこともありません。

何十年かたつて、ようやく通じる英語がしゃべれるようになりまして、それには基礎が重要です。3人称現在単数にSをつけたとか、会話は通じても、書くときにSを落としたり、それは本当にみついてもない間違い。

さつちりとした語学力をつけるんだつたら基本的な勉強は絶対に必要です。

私は映画の字幕に興味を持って、大長島道ゆりでしたけど、それを仕事にする事ができました。

みなさんの中にも字幕の仕事をしたと思つてらつたらしゃやる方もいるかと思うんですけど、今はほとんど吹き替えが普及しています。ほぼ100%の字幕回つたのね。

このあたり、リチャード・ギアがイタリアで僕の生の声を聞いてた人はひとりもないと言っていました。

外国には字幕版がないんです。字幕を読む習慣がない。面倒くさい。僕達の生の声なんて全然関心がない。吹き替えのが来。こういう発想です。

で、日本も今そうなるっていうんです。私が字幕屋だから字幕を応募しているっていうのもあるけど、これは日本にとつて田々しき問題です。

## 戸田奈津子先生の講演を聴いて

制約で字幕にならない台詞がある中で映画を楽しませるための訳出の苦労や字幕翻訳が日本特有の文化なのだといふことを知った。また、キャメロン監督の3Dへの執念が別次元の映画を創り、映画界を次世代にいだきだしたということが戸田さんの話から感じられた。これも日本特有であらう映画英語教育が東日本支部にとつてのアバターであり、日本の英語教育を次世代へといきざなう役割りも期待されるだろうと感じた。

映画英語教育センター / eigoFUN代表  
高尾 雅基  
Masaki TAKAKUBO

## 映画で英語を学ぶ

相模女子大学教授・  
前映画英語教育学会会長  
曾根田 憲三  
Kenzo SONEDA

今日、国際語としての播きにくい地位を確立している英語を、将来の日本を担う若者達に習得させることはもちろん、私たちが再度、学び直すことは有意義なことです。しかし、ここで言う英語とは教養主義あるいは知的鍛錬を目的とした語だけの英語やまるでクイズのような文法ではありませぬ。それは現在の社会の要請に反するばかりか、言語習得の原則からも外れているからです。社会が、そして世界が求めているのはコミュニケーションの手段としての英語、すなわち相手の言わんとすることを正確に理解し、自分の意思を的確に相手に伝えることのできる能力です。とはいえ、言語におけるこうした能力はいくら英字新聞を読んでも、また英米の小説などを読破したとしても獲得し得るものではありません。なぜなら活字からだけでは言語が本来的に持っている音声と、それに伴うスピードは出てこないからです。英語を学ぶ場合、分らない箇所は遭遇すれば十分に時間をかけて辞書を調べたり、読み返し、一瞬が勝負であり、相手の話す言葉の意味はもちろん発音が聞き取れなかったり、スピードについていけないけれど、コミュニケーション能力を高める最も有効な方法は、私たちと日本語の関係を取り返してみてもなく、目でみ文字を捉え理解することではなく、言語本来の姿である日常の言語活動を音声面からも同時に学習することなのです。

これまで市販の英語教材を使ってみたものの、内容が単純すぎて興味や知的好奇心を刺激するに十分ではないなどの理由から、勉強意欲が失われたといった経験は誰にもあるはず。実際、巷に溢れているビデオやCDの英語はわざとらしいほどゆくりと明瞭に音読されたものであり、また決まりきった会話の断片であるために、しばしば私たちの学習意欲をそいでしまいます。実際に人々の口について出てくる言葉の音声はより不鮮明で、人々が街角や社交の場で交わす言葉のやりとりはもっと刺激的で楽しいはず。

こうした英語を学習する上で私たちの多くが遭遇する様々な問題を一挙に解決してくれるのが映画です。映画にはありとあらゆる生活の側面をスクリーンにリアルに映し出し、私たちに日常を英語で疑似体験させてくれます。物語が展開する時代的、社会的、文化的背景のもとで、世界に名だたるスターたちがしゃべるセリフは一流の脚本家によって練りに練られたものだけに、演じられる人物、場面、また状況に最も相応しい表現になっており、その音声は些かのわざとらしさも感じない自然なものです。ところがこれは映画の中の英語には短縮形あり、省略形あり、スラングあり、また必ずしも文法通りに話されているわけ



ではありません。俳優の口をついて出る英語のスピードやイントネーションについてもまちまちです。登場人物の社会的地位、職業、年齢、性別といった要素によって使われる表現や発音が微妙に異なったりもします。しかし、だからこそ、それは紛れもなく生きた鮮度の高い英語であり、学習者はそうしたリアリティに満ち溢れた英語を話す人々の息づかいを、臨場感をもって感じ取り、生き生きとした実践的な英語表現を学ぶことができるのです。また、私たちが驚愕の映画を観る際に意識的に、あるいは無意識のうちにも用いている言葉のニュアンス、語気、音色、顔の表情、身振り、ちょっとした仕草などに関する情報も一杯詰まっています。そのため、スターがしゃべるセリフに耳を澄まし、ボディ・ランゲージなどにも注意を払えば、コミュニケーション能力の涵養に大いに役立つことは間違いないでしょう。ともかく、言語の習得が辞書の読みも明瞭ではない定義を丸暗記して達成されるものではなく、自らの多様な経験を通過してのみ可能となることを考えるとき、自分の部屋にいなからにして人生の諸々の経験が世界の美美女たちと英語で疑似体験できる映画こそ、英語学習の切り札であることは容易に察せられるでしょう。

しかしながら、英語力の向上を目指す映画を利用するためには、セリフを中途半端ではなく正確に把握するよう努めることが大切です。ただ漠然と映画を見るだけでは、また大まかな内容を伝えてある字幕を読み、それがセリフに対応した日本語表現だと思い込んで満足している限りは、何の効果もありません。ハリウッド映画の消費大国である私たち日本人の英語力が、悲しいかな、それを如実に物語っています。単なる日常会話に留まらず、教育やビジネスシーンなどでも通用する本物の英語力を身につけたいなら、英語のセリフが正確に文字化され、大雑把な訳ではなく、一字一句を大切にした正確な日本語訳、ならびに懇切丁寧な語句解説が掲載された映画のシナリオが大いに威力を発揮するはず。DVDを併用し、オーディオ・ヘッドホンやトム・クルーズになったつもりで音読を繰り返し、彼らのセリフが自然に口をついて出るようになるまで練習してみましょう。映画の内容、使われている英語表現、俳優など自分の好みに合わせて映画を選び、多くの中からクラシックの名作かお勧めですがシナリオを片手に楽しみながら英語の学習に励もうではありませぬか。Practice makes perfect. みなさんの成功を心からお祈り致します。

# 東日本支部結成大会・記念講演会報告

2009年12月20日(日)相模女子大学において東日本支部の結成大会・記念講演会が435名というたくさんの方々のご協力ご参加をいただき盛況に開催されました。

第一部の結成大会ではATEM会則にのっとり、支部設立の承認を受け、囀れて設立の運びとなりました。来賓としてご参加いただきましたATEM佐藤副会長・鈴木名譽理事をはじめ、九州支部の秋吉支部長、関西支部の藤枝支部長より祝辞が披露されました。

第二部では相模女子大学の曾根田教授、戸田奈津子氏による記念講演が多くの聴講者の熱気の中で行われました。戸田先生への質問も活発に出て、「映画英語」に対する興味と感心の深さがかうかええました。今後の支部活動の可能性への期待を込めて大会は無事終了いたしました。



## 結成大会・講演会参加者数

会員・来賓	34名
非会員	391名
スタッフ (広義アット・スクリーンフレンド)	10名
合計	435名

※郵付名簿・アンケート

アンケート回収数	281枚 (回収率 66%)
フレゼント引換券回収数	392枚
新加入会者数	7名

非会員の内訳		391名
■教職	大学	51名
	中学・高校	8名
	塾・予備校・英会話スクール	13名
	元教員(詳細不明)	12名
	元教員(文筆業・医療翻訳者・言語聴覚士など)	18名
■学生	■同連	14名
■一般	会社員・会社役員	82名
	公務員・団体職員	8名
	自営	5名
	主婦	44名
■その他(一般・情報なし)		153名

## 映画英語教育学会【ATEM】 東日本支部結成大会

第一部 支部結成大会 12:30～受付開始 13:00～13:40

1. 開会の辞
2. 設立趣意説明 新田晴彦(専修大学)
3. 設立宣言 堀口 優(白梅学園国際大学)
4. 役員の見出し 新田晴彦(専修大学)
5. 支部長あいさつ 新田晴彦(専修大学)
6. 祝辞 鈴木雄大(オゾン・インターナショナル)・佐藤弘明(専修大学) 藤枝聖之(関西学院大学・短期大学)・秋野礼子(福岡大学)
7. 今後の活動予定・方針説明
8. 閉会の辞

第二部 記念講演会 13:30～受付開始 14:00～16:00

- (1)基調講演 曾根田憲三氏 (相模女子大学教授、前映画英語教育学会会長)
- (2)記念講演 戸田奈津子氏(映画字幕翻訳者)

講演後、東日本支部の今後の研究活動や各委員会の内容を紹介しました。

■日時 12月20日(日)  
■場所 相模女子大学

休憩 20分

# 東日本支部結成大会・記念講演会 アンケート集計結果

アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。

この集計結果は、今後のATEM東日本支部の活動に活かしていきたいと思えます。

## ●有効回答数

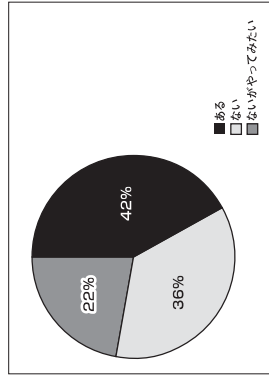
### ■内訳

会員・来賓	9
非会員	272

教職	39	会社員・公務員・自営	99
関連職	13	主婦	44
学生	28	その他一般	49

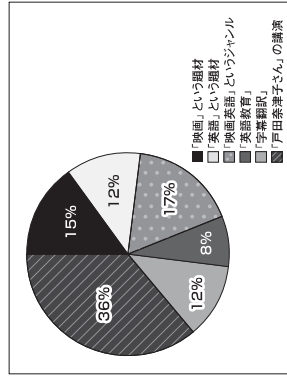
## 1 「映画」を題材にした「英語学習」の経験はありますか。

ある	39
ない	13
ないがやってみたい	28



## 2 本講演会を申し込み込むにあたり、何が一番興味を持たれましたか。

「映画」という題材	96
「英語」という題材	76
「映画英語」というジャンル	106
「英語教育」	48
「字幕翻訳」	76
「戸田奈津子さんの講演」	231



## 3 「英語」への興味・関心度について。

教育現場で活用したい	57
自分自身の勉強のため	225
字幕翻訳者志望	11
その他	13

【その他内訳】  
 文芸翻訳の勉強中／留学したい／以前勉強していた／翻訳の一助として／  
 海外移住／将来渡米／旅行に役立てたい／現在英語をつかったサークルに  
 所属している／職場で使う／復讐に向けて／子供の英語への関心、子ども  
 が英語嫌いなので楽しさを教えたい

## 4 好きな映画のジャンルは何ですか。

1 恋愛・ラブロマンス・ロマンス	36
2 コメディ	33
3 アクション	27
4 SF	22
5 ヒューマン	22
6 サスペンス・ミステリー	21
7 ラブコメディ	18
8 ドキュメンタリー・ノンフィクション	15
9 歴史	14
10 ミュージカル	10

## 5 好きな映画のタイトルを3つお書き下さい。

1 ローマの休日	48
2 風と共に去りぬ	22
3 ハリーポッター	17
4 タイタニック	16
5 ショーシャンクの空に	15
6 ターミネーター	14
7 インディ・ジョーンズ	12
8 ダイハード	12
9 バックトゥーザフューチャー	13
10 フォレストガンプ	11

## 6 今後聞いてみたい講演者、またはテーマがありましたらお書き下さい。

### 講演者(主な回答)

- 戸田奈津子
- 鳥飼久美子
- 大杉正明
- ハックン
- 映画監督、映像翻訳者
- 俳優、外国人のアーティスト
- 大学の教育学部の教授

### テーマ(主な回答)

- 映画と英語学習
- 児童英語教育
- 通訳
- 映像翻訳について
- 英語教育について
- 吹き替えの面白さについて

## 6 今後のATEMの活動にどのようなことを期待しますか。

### 主な回答

- 映画で英語を勉強する方法の紹介
- 映画英語教育のメリットを先生だけでなく学生にも伝えるべき
- 映画英語に興味のある一般人にも門戸を広げてほしい
- 英語を母国語とする方々の参加を促して映画英語についての意見を聞きたい
- 会員を増やす。支部を越えた共同研究や大会参加
- 講演会の充実、定期的な会
- 楽しく子供が英語を学ぶことができる場の提供、気軽に構えず勉強できる環境づくり
- 良書をたくさん出してほしい
- 今回初めて知ったのでよくわからない

### 【その他回答】

- 英語学習に興味を持って楽しくできるように●映画特有の、シチュエーションごとに違う英語表現を学生に教えていた  
 だきたい●吹き替えのこと・英語圏の文化習慣のちがいを教えて●日本人の身近に英語が感じられるような社会にする  
 ●翻訳のコツの授業●教育関係者以外の一般の学習者も学べるような工夫をしてもらえることよい ……他

## 支 部 報 告

## ATEM東日本支部活動計画

## ■支部結成への協力を感謝

12月20日(日)相模女子大学を会場にATEM東日本支部が結成されましたが、結成に際して他支部や会員から励ましと賛同の言葉をいただいたり、心よりお礼申し上げます。来場者は400名以上にりましたが、戸田奈津子さんの講演も大好評でした。結成して既に3ヶ月が過ぎ、2月28日には第1回の研究会が19名の参加で開催されました。まだまだスタートしたばかりで支部としての対応が十分できませんが、徐々に形を整えていきたいと思っております。

## ■初めての研究会

研究部会委員長大月さんのリードで着々と研究会の計画をすすめていますが、第1回の研究会ではテーマを「語学教育とメディア・リテラシー教育の両輪実現のための実践的試み」とし、報告として「①映画メディアに対する認識とリテラシー次如の映画選定におけるリスナー主にディズニアーニアメーション映画「ライオンキング(1993)」を例にして」堤龍一郎氏(早稲田大学演劇博物館)、「②TVドラマ「ER」に見るポライトネスと語学教育との融合ー授業実践例大月敦子氏(信州大学)」をお願ひし、3時間に及び報告と討論を行いました。以下感想です。

- 報告について
- 大変参考になりました。あまり深く入ると、演劇論、映画論あるいは社会学になってしまうので、映画を授業に使う時のサポートとして、先生の御報告を役立てたいと思います。
- 今までメディアリテラシーについて考えたことがなかった中で非常に勉強になった。特にライオンキングの役によってどのような英語を話しているのかというのが役には興味深かった。

## ●大月報告について

- 「ER」は医学部の学生にとって、大変興味深いに違いないと思いました。Politenessをテーマに切り取るのももちろん面白いと思いましたが、その他の、提示されていたテーマで切り取って授業をするのもとても面白いだろうなと思いました。

- 授業の流れが大変分かり易く、この映画を用いて中学生に教えたくなった。Politenessに着目することで日本語と英語の違いもよく分かったと思った。堤先生とのコンビがとても良かったです。

## ■これからの予定

この報告が出る時には3月に開催された「映画英語教育学会東日本支部スプリング・セミナー」が終わっています。テーマ「映画英語を活用した音声指導法の開発と実践」として「mpiメソッドから映画英語教育の可能性を探る」として「mpi Method to Read by Correlating Sounds with Symbols」講師は松香洋子氏(株)mpi(旧松香フォニックス研究所)それから「映画と帰国生を活かした音読指導」講師は嘉来純一氏(早稲田大学本庄高等学校)でした。結果についてはまた報告させていただきますが、30名の参加がありました。又4月18日の第3回講演会には、18名が参加して熱気にあふれた議論をしています。

以下今後の日程を入れておきます。

## ○5月30日(日)第4回研究会

- ① 小学校・中学校における映画英語教育の可能性
- ② 映画を用いた中学校の授業

\*6月以降の研究会は27日(日)です。なお12月19日(日)には第2回大会を予定しています。また大会に向けて出版の準備中です。

東海支部では、2009年12月6日、愛知県岡崎市のコミュニティサテライトオフィスと共催で、「映画英語フェスティバルIN岡崎」を開催しました。例年は夏前に行っている恒例のイベントですが、今年度は事情により12月の開催となりました。当日の特別ゲストには、名古屋ZIP-FMのナビゲーター、渡辺麻耶さんをお迎えし、「私の好きな映画」と題した楽しい講演をしていただきました。また、それに先立ち、映画「プラダを着た悪魔」の上映、および同映画のスクリーンプレイ監修者である亀山太一(東海支部長)による映画と英語についての解説が

東海支部長 亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)  
Taichi KAMEYAMA

## 東 海 支 部

あり、約50人の参加者から大変好評をいただきました。東海支部会員によるスクリーンプレイシリーズの最新刊は、5月の「幸せになるための27のドレス」、12月の「サンキュー・スモーキング」の2冊です。どちらとも一見の価値のある映画だと思います。

## 関 西 支 部 報 告

(仮称)です。また、9月25日に近畿大学にて支部大会を開く予定です。

有志による出版活動も活発で、今年度はスクリーンプレイから名作映画完全セリフ集「シブーン」、くろしお出版から映画英語学の解説書、など教員が出席される予定です。

その他、年に4回ほど「交流会」と称する飲み会を催し、ビール、ワイン、焼酎片手に会員同士の親睦を深めています。関西以外の方々もぜひ遊びにお越し下さい。

関西支部長 藤枝 善之(京都外国語大学短期大学)  
Yoshiyuki FUJIE

## 九 州 支 部 よ り

2009年9月5日(土)、西南学院大学で第11回支部大会を行いました。恒例の映画オタクコンテストに続き、初の試みで、「映画で英語レッスン」と題し、2名の先生に実際の授業形式で発表をしていただき、それに続いて2室で合計8本の発表がありました。大会後の恒例の懇親会にも多くの方々にご主催いただきました。

2010年度の大会は、10月30日(土)に九州大学大橋キャン

九州支部長 秋好 礼子(福岡大学)  
Reiko AKIYOSHI

## 委員会報告

### データベース作成委員会

当委員会は、映画分析(discourse analysis in movies)から始めて映画英語教育の教材作成に役立つデータベースの構築を目標として活動しています。今年に着工3年目にあたり、現在はデータベース仕様に整合させてデータを格納しています。映画を使った英語教育者や学習者、映画作品研究者に効用あるものです。

「映画英語教育」に関する内容であれば、DBに格納いたします。すでに発表済みの論文や教材(英語・日本語問わず)でも構いませんので、データをお持ちの方はご希望がございましたら当方(ej-koho@atem.org)へどうぞご連絡ください。

本学会HPには、一部を表示してありますのでご覧ください。

ATEM公式サイト:<http://www.atem.org/>

●直近の一部を表示:

<http://www.atem.org/cnc8/index.html>

[http://www.atem.org/materials/gwtw\\_atem.pdf](http://www.atem.org/materials/gwtw_atem.pdf)

[http://www.atem.org/materials/gosfordpark\\_mt.pdf](http://www.atem.org/materials/gosfordpark_mt.pdf)

[http://www.atem.org/materials/smatch\\_ys.pdf](http://www.atem.org/materials/smatch_ys.pdf)

[http://www.atem.org/materials/monalissasmile\\_hk.pdf](http://www.atem.org/materials/monalissasmile_hk.pdf)

[http://www.atem.org/new\\_movies/upintheair\\_atem.pdf](http://www.atem.org/new_movies/upintheair_atem.pdf)

塚田 三千代 (映画・映画英語アナリスト)

———— Michiko TSUKADA

W.クリンガー (滋賀県立大学)

———— Walter KLINGER

### 国際交流委員会

2010年4月17日(土)、ソウルのMyongji College にて、第14回STEM大会が開催されました。今回の大会テーマは、「World Englishes through Movies」で、映画の中の各国各様の英語、そしてそれをどう授業で活かすかなど、様々な角度からの発表がありました。ATEMからは、鶴崎弘真会長が、「Comparing Lexical Diversity of Movie Scripts and That of Corresponding Novelized Texts」というタイトルで、九州支部の本正明先生が、「A Push-Based e-Learning for Self-Studying

というタイトルでご発表されました。今回のATEMからの参加者は合計9名と若手なめではありましたが、例年通り、リー会長をはじめ、STEMの皆さんの歓待を受けました。

2011年のSTEM大会は、4月16日(土)にブサンで開催予定です。毎年4月の第3土曜と決まっていますのでご予約に入れていただき、発表の有無に関わらず、ぜひご参加ください。よろしくお願いいたします。詳細は決まり次第、HPやNLに掲載していきます。お気軽に申し上げます。詳細は決まり次第、HPやNLに掲載させていただきます。

秋好 礼子(福岡大学)

———— Reiko AKIYOSHI

## 新刊紹介

### 本学会理事の角山照彦氏の最新刊が出版されました!!

「ローマの休日」を観たことがある人もいない人も、可憐なおードリーは見えます!!

### 「ローマの休日」で学ぶ英語 パーフェクト・ワークブック

—オードリーと学ぶ英会話—

DVDブック



著者:角山 照彦 著 《定価:本体1,500円+税》

話せるようになりたいのに、なかなか続かない英語の勉強…。

好きな映画なら、観ながら楽しく学べる気がしませんか?

オードリー・ヘプバーンの代表作「ローマの休日」は、お城を抜け出したアン王女と新聞社に勤めるジョーの淡い恋物語を描いた作品です。

●アン王女が話すのは上品なイギリス英語。

●ジョーが話すのは日本人が聞きなれないアメリカ英語。

●映画全編を12ユニットに分け、ワークブック形式で映画の内容を確認していきます。

●付録には、カダメシの演習問題と厳選された会話表現100フレーズ集がついています。

出版年月日:2010/04/01 ISBN:9784877314996 判型/ページ数:A5 / 300ページ

## 新作映画紹介



©2009 by Paramount Pictures. All Rights Reserved

### ラブリー・ボーン

原題:THE LOVELY BONES

第82回米国アカデミー賞助演男優賞ノミネート (スタンリー・トゥッチ)

【監督】ヒュー・ジャックマン

【主演】シアン・ジャロウ/サン・マークウオール/バグ・スワーズ/サン・ランドン/スタンリー・トゥッチ

【配給】パラマウント ピクチャーズ ジャパン

【原作】アリス・シーボルトのベストセラー小説「ラブリー・ボーン」

●学校の閉路、突然に他界した14歳の少女スージーのナレーション

"My name is Salomon, like the fish. First name, Susie. I was fourteen years old when I was murdered on December 6th, 1973. I wasn't gone." で始まる。地上と天国を結ぶ中間から娘と父親や家族、人と人との絆、憎しみ、愛、代償をファンタスティックに描いた作品。

### マイレージ、マイライフ

原題:UP IN THE AIR

第82回米国アカデミー賞にノミネート主演男優賞(ジョージ・クルーニー)/助演女優賞(ウエズ・アーサー/ミア・ファロウ/リック・オニール)

【監督】ジョージ・クルーニー

【主演】ジョージ・クルーニー/アン・ヘセウイッチ/ケイト・マクキネン

【配給】パラマウント ピクチャーズ ジャパン

●舞台はアメリカだが日本社会が直面するテーマ。マイレージポイントの達成、カード選び、リストラ宣言人、結婚、人生とは? ジョージ・クルーニーのボーカークーアイスと軽妙な演技がひかる。歯切れよい英語でユーモアに富む作品。



©2009 DMV STUDIOS LLC and COLD SPRING PICTURES. All Rights Reserved.

### 17歳の肖像

原題:AN EDUCATION

第64回英国アカデミー賞(BAFTA) 主演女優賞を受賞。

第82回米国アカデミー賞主演3部門にノミネート

【監督】ロネ・シエルフィグ 脚本:ニック・ボーンビー

【主演】キルキー・マリガン/ヒューター・サーサーズ/ガード・アール/リッド・モリーナ

【製作】イギリス レーディングPG-12

【配給】リニー・ピクチャーズ エンタテインメント

●1960年代、ロンドン郊外に住み、名門大学を目指す16歳の少女はフランス文化に憧れている。未知の世界へ向けて、大人への一歩を踏み出そうとしたとき、自ら選んだ人生の答えとは……? ジェニーとデイヴィッド、両親、教師たちたちの考え、その「言葉」と行動に注目したい。BBC FILM協賛。イギリス英語の慣用表現に加えて、文学・映画用語、比喩やスラング、簡単なフランス語も登場。共感することの多い作品。



SONY PICTURES ENTERTAINMENT

## ATEM第16回全国大会 発表者募集

映画英語教育学会では2010年8月8日(日)、北海道医療大学札幌サテライトキャンパス(札幌駅前)にて、第17回大会を開きます。つきましては研究発表を募集いたします。希望する方は次の書類を下記までメールしてください。そのほか詳細はATEMホームページ(<http://www.atem.org/>)をご覧ください。

- 【必須事項】①発表題目 ②発表者名(全員、ふりがな、ローマ字必要)  
 ③所属(発表者全員、ふりがな、英語名も必要)  
 ④連絡先住所 ⑤メールアドレス ⑥電話番号 ⑦発表時の使用言語(発表時間は30分)  
 ⑧使用機器(ただし開催校で準備できない場合もあります。)  
 ⑨発表概要(日本語発表は400字程度。英語発表では200words程度)

【送り先】thc0408@gmail.com

【電子メールの件名】(タイトルは半角小文字) atem2010paper

【応募資格】会費を全額納入しているATEM会員。共同発表者も同じ。

## 入会案内

1. 本学会には学会の主旨、目的、会則に賛同する人及び会社・団体は誰でも入会できます。
2. 下記の入会申し込み用紙に記入の上、事務局まで FAX または郵送して下さい。E-mail でも結構です。
3. なお、賛助会員として入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。
4. 送付先: 映画英語教育学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12アルク高田馬場4F (株)広真アド内  
 TEL : 03-3365-0182 FAX : 03-3360-6364 E-mail : office@atem.org

(切り取り線)

### 映画英語教育学会入会申込用紙 (FAX 03-3360-6364)

私は、「映画英語教育学会」の会則を承諾し、入会を申し込みます。 年 月 日

氏名	(フリガナ)		
自宅	住 所	〒	
	電 話	FAX	
	E-mail		
勤務先	学 校 名	学 校 名	
	会 社 名	部 署 名	
	住 所	〒	
	電 話	FAX	
郵送物送付	<input type="checkbox"/> 自宅優先 <input type="checkbox"/> 勤務先優先		